

豊川の授業

14のポイント

私たち教師は、子どもたちのために常に「よい授業」をしたいと考えています。では、よい授業とはどのような授業でしょうか。よい授業を行うために、何を大切に何をすればよいのか、その指針となるのがこの「豊川の授業 14のポイント」です。

今回、現行の学習指導要領の趣旨を意識してほしいと考え、改訂を行い、授業において大切な事柄を14の項目にまとめました。「主体的・対話的で深い学び」が実践されるよう、各ポイントを「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」につながることで、それを実現させるための「継続的に高めたい技術・技能」に分類して示しました。加えて、1人1台端末をはじめとしたICT機器の活用場面や方法、効果等について各ポイントに示しました。

また、自分の授業を振り返るとき、授業を参観するとき、チェックリストを活用することを期待します。チェックリストは、チェックすることが目的ではなく、授業の中で大切にしたいことをいつも意識して授業に取り組んでほしいという願いから作成しました。

わかる授業・楽しい授業を目ざして、授業を大切にする豊川の教師であってほしいと願っています。

豊川市現職研修委員会

「主体的な学び」
につながること



「対話的な学び」
につながること



「深い学び」
につながること



継続的に高めたい
技術・技能



ポイント1

学習規律



子どもは、学習規律（時間を守る、心をこめた挨拶、授業の準備、返事、話し方・聞き方）を守ることができます

- ・子どもの集中力が削がれることのないよう、教室前面の掲示物を控えるなど、ユニバーサルデザインを意識した教室環境を整えましょう。
- ・教師も授業開始時刻や終了時刻を守りましょう。
- ・心をこめた挨拶で授業をスタートさせましょう。子どもと視線を合わせ、子どもの様子を確認しましょう。
- ・授業に集中できるように、子どもの机上は常に整理整頓をさせましょう。
- ・ノートを使うときは、あとから見返しやすくなるよう基本的な書き方を繰り返し指導し、定着させましょう。
- ・指名されたときの返事や、発言のときの姿勢などを常に意識させましょう。
- ・話し方・聞き方のルールを繰り返し指導しましょう。（話し手は、聞き手の方を向く。聞き手は、話し手に体を向けてあいづちをうつなどしながら聞く。）

学習規律の定着を目ざすには、できていないことを指摘するのではなく、できていることを褒めることが効果的です。特に、学期の初めは毎時間確認するぐらい丁寧に指導しましょう。

ポイント2
**教師の
話し方**
技

声の大きさや話す速さ、抑揚、表情など、話し方を工夫していますか
聞き取りやすい声の大きさや速さで話すことが大切です。また、抑揚をつけた
り豊かな表情で話したりすることで、子どもの集中力を高めることができます。
特に注目させたい場面では、声の大きさや速さを変えることも効果的です。場面
に応じて、テンポよく指名したり、間を作ったりすることも重要です。特に教師
のアイコンタクトは、授業にはなくてはならないものです。また、一度の指示で
多くのことを伝えるのは避けましょう。

ポイント3
**ねらい・
見通し**
主 深

その時間で何を学ばせたいのか、授業のねらいをはっきりさせ、見通
しをもたせて授業に入っていましたか

単元等全体の学習の流れを踏まえて、本時の授業のねらいや位置づけを明確に
してから授業に臨みましょう。どのような力をつけるために、どのような課題を
設定し、どのような教材を用いるのかを考え、1時間のゴールまでをイメージす
ることが大切です。

同様に子ども自身も学習の見通しがもてるとよいでしょう。授業の初めに前時
までにわかったこと、疑問として残っていることを確認することで学習内容のつ
ながりを意識できます。学習のあしあとを記した掲示物やノート、ワークシート
をもとに確認するとよいでしょう。ICT機器を活用して確認するのも効果的で
す。

ポイント4
目 標
主

目標を子どもたちに明確に示していましたか

この1時間でどのようなことを考えたり、活動したりするのか、目標を示すこ
とで、子どもたちは目的意識をもって学習を進めることができます。目標はポイ
ント3で考えた授業のねらいとつなげて、子ども目線の言葉で示しましょう。目
標が明確に示されることで、授業の流れがねらいから外れたときにも、立ち返り
やすくなります。

ポイント5
発 問
深

さまざまな考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問がで
きていましたか

その時間の目標達成に向け、吟味された主発問となっていることが大切です。
子どもたちの解決したいという思いが高まり、多様な意見が出され、考えや理解
が深まる発問を考えましょう。あわせて、課題の解決にあたり学習指導要領に示
されている各教科等の見方・考え方を働かせることができるか、確認してみま
しょう。

課題は板書するなどして明確に示すことが大切です。思いつきの安易な発問を
繰り返すことや、一問一答形式ばかりの授業は、避けましょう。また、言い直
すと、内容が変わってしまうことが多いので、わかりやすく、一度で伝えるよう
にしましょう。

ポイント6
**考えを
もたせる**



課題に対する自分の考えをもたせることができていましたか

授業の中で、自分の考えをもたせる場を設定しましょう。考える視点を示したり、ワークシートやノート、ICT機器を活用したりして一人一人に自分の考えをもたせたいものです。言葉や図などでまとめることで、子どもたちは積極的に考えを交流し、学びを深めたり広げたりすることができます。

ポイント7
**考えを
表現させる**



自分の考えを表現する活動を効果的に取り入れていましたか

グループ・ペアなどの小集団や全体場で、自分の考えを表現する場を設定しましょう。学習形態を工夫することで、全員参加の授業につながるとともに、考えを表現し合うことで学習に深まりが生まれます。その際、目的に合わせた学習形態を取り入れることも大切です。あわせてICT機器を用いると、自分の考えをわかりやすく伝えられたり、友達の考えを詳しく把握したりすることができます。共同で作成・編集等を行うのもよいでしょう。よい話し方や聞き方、表現の仕方を具体的に褒め、認めながら向上を図りましょう。

ポイント8
机間指導



明確な意図をもって机間指導をしていましたか

机間指導では、多くの子どもに関われるよう配慮して回りましょう。認める声かけをしたり丸つけをしたりして個別に支援することで、子どもたちのやる気を引き出すことができます。一人一人がどのような考えをもっているのかを把握し、次の展開につなげることが大切です。座席表を活用するのもよいでしょう。また、グループ・ペアなどの小集団での活動の際は、関わりを促す声かけをしながら進み具合を確認しましょう。場合によっては問いかけたり、解決の糸口になるような考えを取り上げて広げたりするとよいでしょう。

ポイント9
**子どもの
受容**



子どものよさを認めるような言葉かけや、それぞれの子どもに合わせた関わりが、できていましたか

子どもの発言を受け止める姿勢を大切にしましょう。子どもの発言のあとは、うなずいたり、「〇〇さんはどう思う？」と他の子どもに広げたりするとよいでしょう。机間指導や全体場でも、子どもを認め伸ばすような肯定的な言葉かけをしましょう。子どもの考え方を理解し、子ども一人一人のよい点や可能性を見つけ、積極的に評価していきましょう。

ポイント10
授業展開



子どもの考えを生かして授業を進めていましたか

子どもの考えに寄り添い、発言をつなげることで、ねらいの達成に導くことが教師の役目です。発言を求めたときはすぐに指名せず、挙手が増えるまで待ちましょう。子どもの発言を教師が解説したり、すり替えたりしないように心がけましょう。発言を引き出す、つなぐ、広げる、ゆさぶりをかける、焦点化する、適切な資料を提示するなど、ねらいに応じた教師の出場を考えることが大切です。授業の主役は子どもです。教師の話し過ぎには気をつけたいものです。

ポイント11
個への支援



支援が必要な子どもに対するてだてを用意できていましたか

子どものつまずきを予想し、それに対して何らかの支援ができるよう、あらかじめてだてを考えておきましょう。子どもによって支援の仕方はさまざまです。ワークシートやヒントカード、具体物を用意するのもよいでしょう。グループ・ペアの組み合わせを工夫することも大切です。

また、到達状況に合わせて発展問題や類似問題を用意しておくのもよいでしょう。全員が主体的に参加できるような支援を考えておきたいものです。

ポイント12
学びの可視化



思考の流れがわかるものが視覚的に残されていましたが

1時間の授業がどのように進み、どのように終着したのか、子どもの思考の流れがわかるものを残しましょう。子どもが自分の考えと友達との考えとの違いを自覚できるよう、板書やICT機器を用いて示すことが大切です。

板書では、ネームプレートの使用、チョークによる色分け、考えの関係を線や矢印で結ぶなど、視覚的にわかりやすいものにしましょう。授業の流れを予想して板書やICT機器で示す内容を考え、授業後、効果的であったかを振り返ってみるとよいでしょう。

ポイント13

振り返り



学んだことを実感できるような、授業の振り返りの時間を確保していましたか

振り返りは、「本時の目標（課題）に対してどうだったのか」「何がわかったのか、次にどう生かせるのか」などの視点を示して書かせるとよいでしょう。新たな課題が生まれ、次への意欲にもつながります。教科によっては、適用題を解くことで授業のねらいをどの程度達成したかを教師が把握し、次からの展開に生かしていくこともできます。

ポイント14
学習のあしあと



子どもが学びの成果を自覚できる学習のあしあとが残されていましたが

課題・まとめなどが一目でわかるノートやワークシート、ポートフォリオ等の作成方法を丁寧に指導しましょう。ワークシートを使う場合は、きちんと整理して残しておくことも大切です。タブレット端末を活用して学びを蓄積し、見直せるようにするのもよいでしょう。また、考えを認め意欲をもたせるためにノートへの朱書きや声かけなど、積極的なフィードバックをしましょう。

